

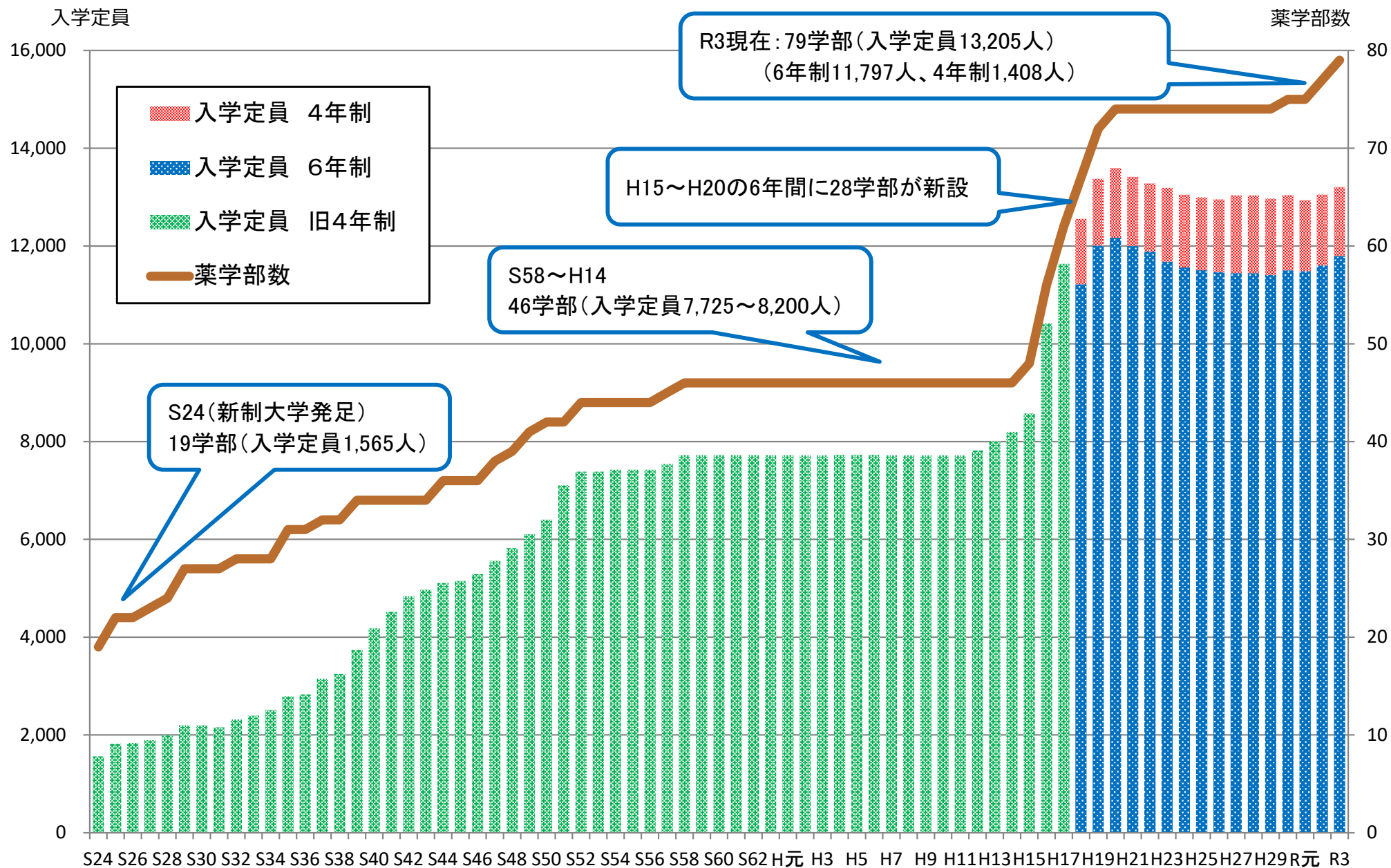
薬学教育関連資料

(目次)

1. 薬学部の設置状況及び定員	2
2. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム	6
3. 薬学実務実習	14

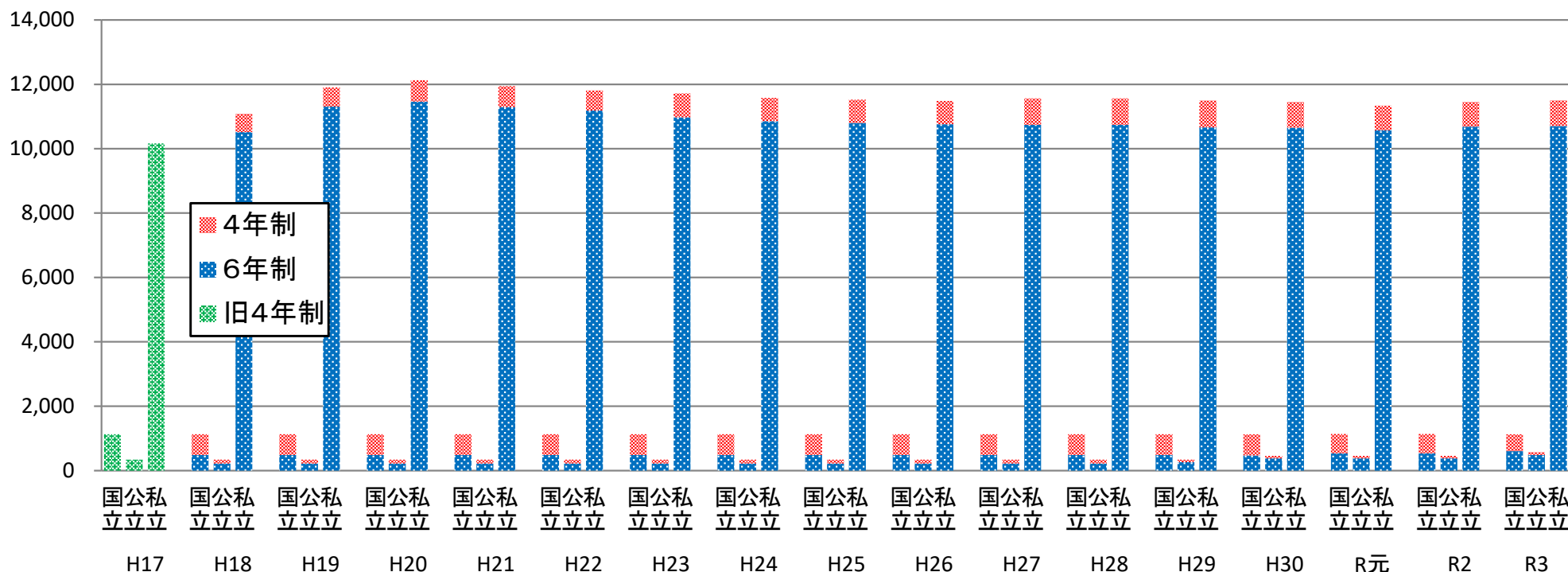
1. 薬学部を設置状況及び定員

薬学部（学科）数及び入学定員の推移



薬学部（学科）入学定員の推移（国公私別）

入学定員



	H17		H18		H19		H20		H21		H22		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		R元		R2		R3		
	旧4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制	6年制	4年制				
国立	1,130	486	644	486	644	486	644	486	644	486	644	486	644	486	644	486	644	486	644	486	644	486	644	486	644	471	658	536	603	536	603	606	523		
	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)	(14大学 14学部)				
公立	340	220	120	220	120	220	120	220	120	220	120	220	120	220	120	220	120	220	120	220	120	220	120	220	120	260	80	380	80	380	80	380	80	485	90
	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(3大学 3学部)	(4大学 4学部)	(4大学 4学部)	(4大学 4学部)	(4大学 4学部)	(4大学 4学部)	(5大学 5学部)	(5大学 5学部)				
私立	10,165	10,514	570	11,304	600	11,464	660	11,294	650	11,184	625	10,974	745	10,854	725	10,799	725	10,759	725	10,739	825	10,739	825	10,662	835	10,651	800	10,571	765	10,686	765	10,706	795		
	(44大学 45学部)	(49大学 50学部)	(54大学 55学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(56大学 57学部)	(57大学 59学部)	(57大学 59学部)	(58大学 60学部)	(58大学 60学部)				
	11,635	11,220	1,334	12,010	1,364	12,170	1,424	12,000	1,414	11,890	1,389	11,680	1,509	11,560	1,489	11,505	1,489	11,465	1,489	11,445	1,589	11,445	1,589	11,408	1,559	11,502	1,538	11,487	1,448	11,602	1,448	11,797	1,408		
	(61大学 62学部)	(66大学 67学部)	(71大学 72学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(73大学 74学部)	(74大学 75学部)	(74大学 75学部)	(74大学 75学部)	(75大学 77学部)	(75大学 77学部)	(77大学 79学部)	(77大学 79学部)				

薬科大学（薬学部）学科別一覧（2021年度）

【国立】

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
1	北海道大学	薬学科	30	薬科学科	50
2	東北大学	薬学科	20	創薬科学科	60
3	千葉大学	薬学科	50	薬科学科	40
4	東京大学	薬学科	8	薬科学科	72
5	富山大学	薬学科	55	創薬科学科	50
6	金沢大学	薬学科	65		
7	京都大学	薬学科	15	薬科学科	65
8	大阪大学	薬学科	80		
9	岡山大学	薬学科	40	創薬科学科	40
10	広島大学	薬学科	38	薬科学科	22
11	徳島大学	薬学科	80		
12	九州大学	臨床薬学科	30	創薬科学科	49
13	長崎大学	薬学科	40	薬科学科	40
14	熊本大学	薬学科	55	創薬・生命薬科学科	35
国立計 (14大学14学部)		14学科	606	11学科	523

【公立】

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
15	岐阜薬科大学	薬学科	120	-	
16	静岡県立大学	薬学科	80	薬科学科	40
17	名古屋市立大学	薬学科	65	生命薬科学科	50
18	和歌山県立大学	薬学科	100		
19	山口東京理科大学	薬学科	120	-	
公立計 (5大学5学部)		5学科	485	2学科	90

【私立】

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
20	北海道医療大学	薬学科	[4] (5) 160	-	
21	北海道科学大学	薬学科	180	-	
22	青森大学	薬学科	70	-	
23	岩手医科大学	薬学科	80	-	
24	東北医科薬科大学	薬学科	300	生命薬科学科	40
25	医療創生大学	薬学科	90	-	
26	奥羽大学	薬学科	140	-	

【私立】

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
27	国際医療福祉大学 (福岡薬学部)	薬学科	180	-	
28	高崎健康福祉大学	薬学科	90	-	
29	城西大学	薬学科	250	薬科学科	50
30	日本薬科大学	薬学科	240	医療栄養学科 医療ビジネス薬科学科	100
31	城西国際大学	医療薬学科	130	-	
32	千葉科学大学	薬学科	120	-	
33	帝京平成大学	薬学科	240	-	
34	東京理科大学	薬学科	100	生命創薬科学科	100
35	東邦大学	薬学科	220	-	
36	日本大学	薬学科	244	-	
37	北里大学	薬学科	260	生命創薬科学科	35
38	慶應義塾大学	薬学科	150	薬科学科	60
39	昭和大学	薬学科	200	-	
40	昭和薬科大学	薬学科	240	-	
41	東京薬科大学	医療薬学科 医療薬物薬学科 医療衛生薬学科	140 140 140	-	
42	星薬科大学	薬学科	260	創薬科学科	20
43	武蔵野大学	薬学科	145	-	
44	明治薬科大学	薬学科	300	生命創薬科学科	60
45	帝京大学	薬学科	320	-	
46	横浜薬科大学	健康薬学科 漢方薬学科 臨床薬学科	60 120 160	薬科学科	30
47	湘南医療大学	医療薬学科	130	-	
48	岐阜医療科学大学	薬学科	100	-	
49	新潟薬科大学	薬学科	180	-	
50	北陸大学	薬学科	125	-	

【私立】

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
51	愛知学院大学	医療薬学科	145	-	
52	金城学院大学	薬学科	150	-	
53	名城大学	薬学科	265	-	
54	鈴鹿医療科学大学	薬学科	100	-	
55	京都薬科大学	薬学科	360	-	
56	同志社女子大学	医療薬学科	125	-	
57	立命館大学	薬学科	100	創薬科学科	60
58	大阪大谷大学	薬学科	140	-	
59	大阪医療薬科大学	薬学科	294	-	
60	近畿大学	医療薬学科	150	創薬科学科	40
61	摂南大学	薬学科	220	-	
62	神戸学院大学	薬学科	250	-	
63	神戸薬科大学	薬学科	270	-	
64	兵庫医療大学	医療薬学科	150	-	
65	姫路獨協大学	医療薬学科	100	-	
66	武庫川女子大学	薬学科	210	健康生命薬科学科	40
67	就実大学	薬学科	100	-	
68	広島国際大学	薬学科	120	-	
69	福山大学	薬学科	150	-	
70	安田女子大学	薬学科	100	-	
71	徳島文理大学 (香川薬学部)	薬学科 薬学科	150 90	- -	
72	松山大学	医療薬学科	100	-	
73	第一薬科大学	薬学科 漢方薬学科	113 60	- -	
74	福岡大学	薬学科	230	-	
75	長崎国際大学	薬学科	120	-	
76	崇城大学	薬学科	120	-	
77	九州保健福祉大学	薬学科	[3] [3] 100	動物生命薬科学科	[3] [3] 40
私立計 (58大学60学部)		65学科 [7] (5) [3]	10,706 [7] (5) [3]	14学科 [3] [3]	795 [3] [3]

国公立合計 (77大学79学部)	84学科	11,797 [7] (5) [3]	27学科	1,408 [3] [3]
---------------------	------	-----------------------	------	------------------

注) []は第2年次編入学定員、()は第3年次編入学定員、
注) { }は第4年次編入学定員 でそれぞれ外数である。

2. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム

モデル・コア・カリキュラムについて

薬学教育モデル・コアカリキュラム

- ・卒業時までに学生が身に付けておくべき必須の能力(知識・技能・態度)の到達目標を提示。
- ・教育課程の時間数の7割程度を目安としたもの。
(残り3割程度は、各大学が特色ある独自のカリキュラムを実施)
- ・平成23年度から25年度にかけて、有識者会議を開催し新たな改訂に向けた検討を実施。平成25年12月に改訂内容を決定し公表。
(平成25年度改訂版)1年間の周知・準備期間を経て、平成27年度から各大学において改訂版コアカリに基づく教育を開始。

(参考) 医学教育モデル・コア・カリキュラム

- ・学生が卒業時まで身に付けておくべき、必須の実践的診療能力(知識・技能・態度)に関する学修目標を明確化。
- ・総履修時間数(単位数)の3分の2程度を目安としたもの。
(残り3分の1程度は各大学が特色ある独自の選択的なカリキュラムを実施)
- ・平成27年度から28年度にかけて、有識者会議を開催し新たな改訂に向けた検討を実施。平成29年3月に改訂内容を決定し公表。
(平成28年度改訂版)1年間の周知・準備期間を経て、平成30年度から各大学において改訂版コアカリに基づく教育を開始。

(参考) 歯学教育モデル・コア・カリキュラム

- ・学生が卒業時まで身に付けておくべき必須の実践的診療能力(知識・技能・態度)に関する学修目標を明確化。
- ・総履修時間数(単位数)の概ね6割程度を目安としたもの。
(残り4割程度は、各大学が特色ある独自のカリキュラムを実施)
- ・平成27年度から28年度にかけて、有識者会議を開催し新たな改訂に向けた検討を実施。平成29年3月に改訂内容を決定し公表。
(平成28年度改訂版)1年間の周知・準備期間を経て、平成30年度から各大学において改訂版コアカリに基づく教育を開始。

- 6年制薬学部のカリキュラム作成の参考となる教育内容ガイドラインであり、学生が卒業までに身に付けておくべき必須の能力の到達目標を提示
- 「**薬剤師として求められる基本的な資質**」を設定し、それを身につけるための一般目標、到達目標を設定する**学習成果基盤型教育 (outcome-based education)**に力点
- 教育課程の時間数の7割はモデル・コアカリキュラムに示された内容を、3割は大学独自のカリキュラム等を履修

薬学教育モデル・コアカリキュラム

A 基本事項

- (1) 薬剤師の使命、(2) 薬剤師に求められる倫理観、(3) 信頼関係の構築、(4) 多職種連携協働とチーム医療、(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

B 薬学と社会

- (1) 人と社会に関わる薬剤師
- (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範
- (3) 社会保障制度と医療経済
- (4) 地域における薬局と薬剤師

卒業まで継続して学修

C 薬学基礎

- C1 物質の物理的性質
- C2 化学物質の分析
- C3 化学物質の性質と反応
- C4 生体分子・医薬品の化学による理解
- C5 自然が生み出す薬物
- C6 生命現象の基礎
- C7 人体の成り立ちと生体機能の調節
- C8 生体防御と微生物

D 衛生薬学

- D1 健康
- D2 環境

E 医療薬学

- E1 薬の作用と体の変化
- E2 薬理・病態・薬物治療
- E3 薬物治療に役立つ情報
- E4 薬の生体内運命
- E5 製剤化のサイエンス

F 薬学臨床

- 早期臨床体験 (2年次修了まで)
- 実務実習履修前の学修

実務実習と体系的に関連づけて学修

実務実習 病院及び薬局 (20単位・22週)

- (1) 薬学臨床の基礎
- (2) 処方せんに基づく調剤
- (3) 薬物療法の実践
- (4) チーム医療への参画
- (5) 地域の保健・医療・福祉への参画

G 薬学研究

- (1) 薬学における研究の位置づけ
- (2) 研究に必要な法規範と倫理
- (3) 研究の実践

実務実習開始前の「共用試験」
(CBT(知識)・OSCE(技能))

実務実習と体系的に関連づけて学修

薬学準備教育ガイドライン(例示)

人と文化

人の行動と心理

薬学の基礎としての
英語、物理、
化学、生物、
数学・統計学

情報
リテラシー

プレゼンテーション

薬剤師国家試験

大学独自のカリキュラム(薬学アドバンスト教育ガイドライン(例示)も参考)

現行の薬学教育モデル・コアカリキュラム②

薬学部6年卒業時に必要とされている資質

● 薬剤師としての心構え

- 医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感および倫理感を有する。

● 患者・生活者本位の視点

- 患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

● コミュニケーション能力

- 患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

● チーム医療への参画

- 医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

● 基礎的な科学力

- 生体および環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

● 薬物療法における実践的能力

- 薬物療法を総合的に評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

● 地域の保健・医療における実践的能力

- 地域の保健、医療、福祉、介護および行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

● 研究能力

- 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

● 自己研鑽

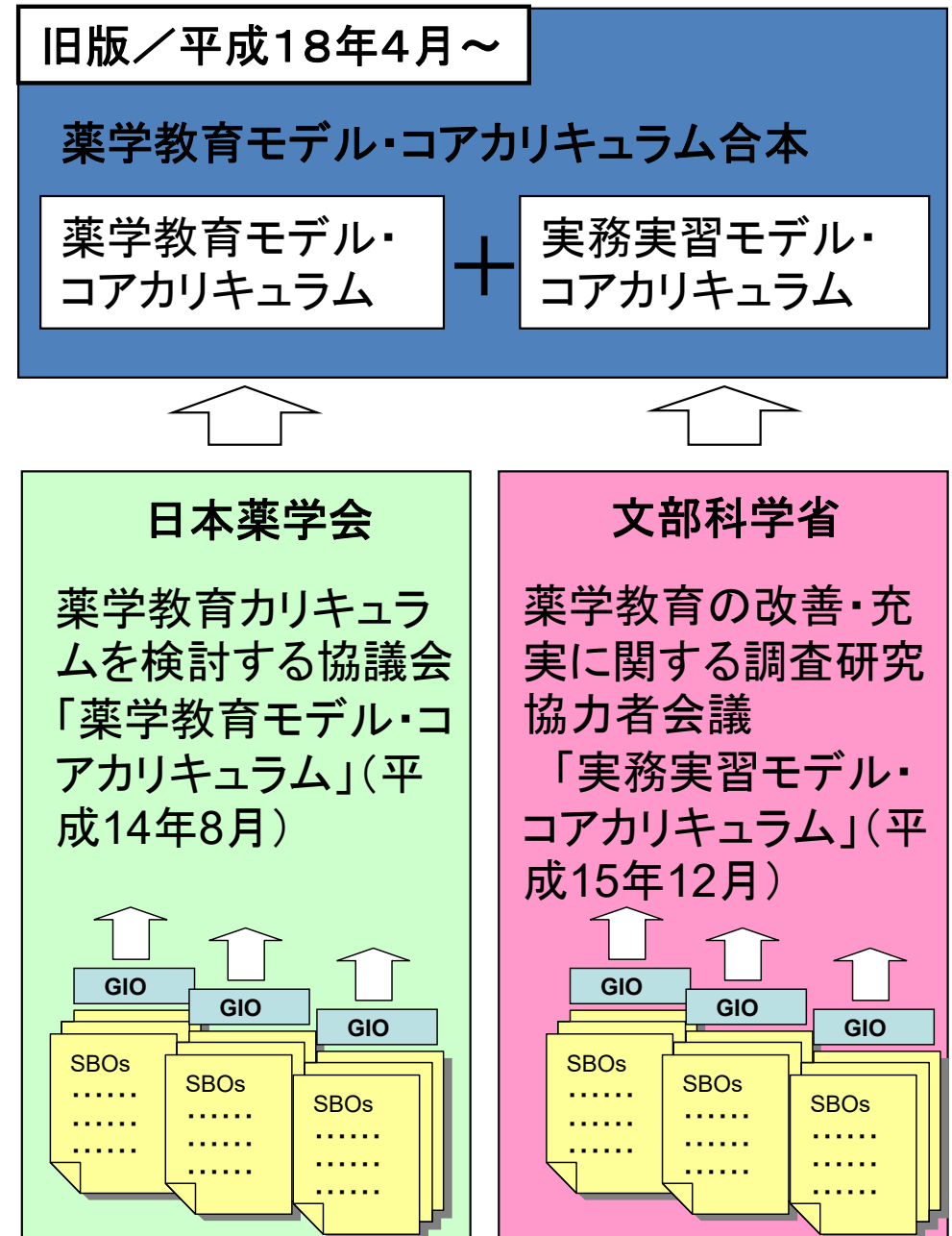
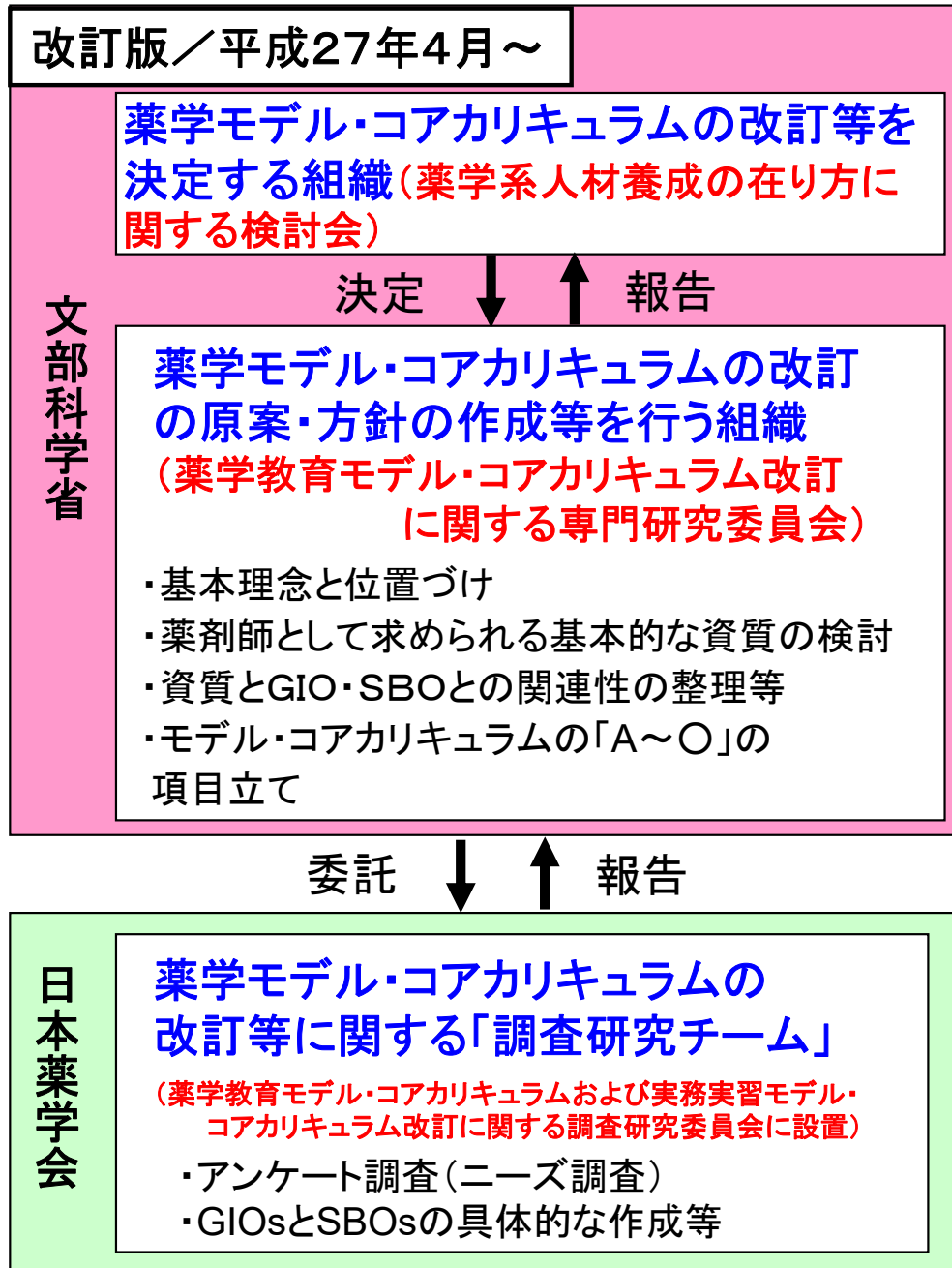
- 薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

● 教育能力

- 次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

薬学教育モデル・コアカリキュラムの策定及び改訂の経緯①

平成14年度策定時及び平成27年度改訂時の体制



医学・歯学・薬学 共通

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」

今回の改訂は、「変化し続ける未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」を目指して医学・歯学・薬学教育の3領域で統一的に取りまとめた。

近年、人口構造の変化、多疾患併存、多死社会、健康格差、増大する医療費、感染症の危機等様々な問題に直面し、これらの社会構造の変化は、年を経るにつれ更なる激化が見込まれている。このように社会に多大な影響を与える出来事を的確に見据え、多様な時代の変化や予測困難な出来事に柔軟に対応し、生涯に渡って活躍し、社会のニーズに応える医療人の養成が必須である。

そのためには、医療者としての根幹となる資質・能力を醸成し、多職種で複合的な協力を行い、多様かつ発展する社会の変化の中で活躍することが求められる。また、患者や家族の価値観に配慮する観点や利他的な態度が重要である。さらには、ビッグデータやAIを含めた医療分野で扱う情報は質も量も拡大・拡張しており、これらを適切に活用した社会への貢献も求められる。

これらを教育面から具現化するため、新たな「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」の提示、各大学の創意・工夫に基づいたカリキュラム作成、課題の発見と解決を科学的に探究する人材の育成、医学・歯学・薬学の教育内容の一部共通化を行うこととした。

また、今回の改訂では、生涯にわたって目標とする「薬剤師としての基本的資質・能力」を掲げた学習成果基盤型教育を柱とし、平成25年度改訂版薬学教育モデル・コアカリキュラムの深化を図り、薬学教育の質保証の観点から改革を進めることを企図する。

薬剤師として求められる基本的な資質・能力

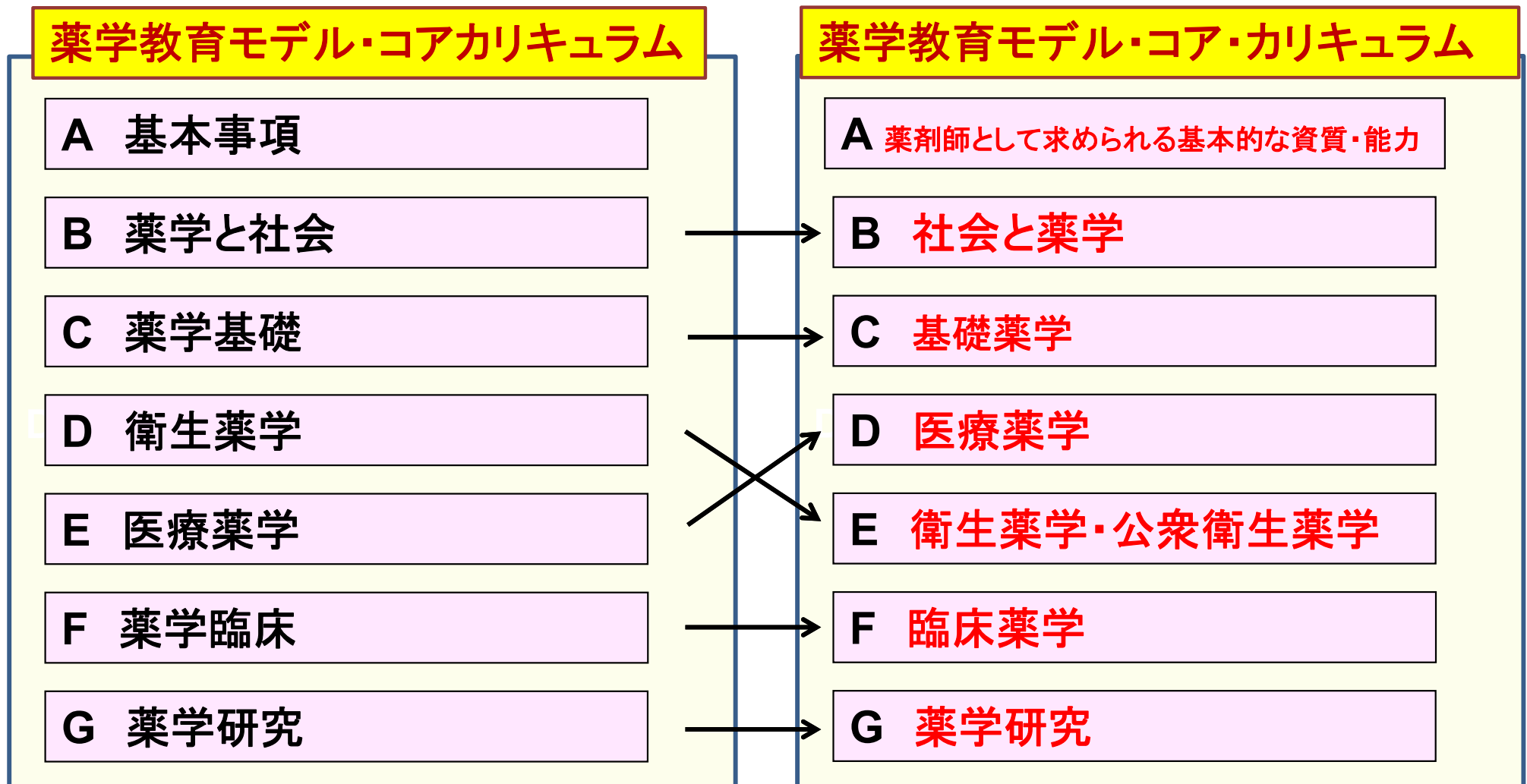
平成25年度 薬学教育モデル・コア カリキュラム 資質	令和4年度版 薬学教育モデル・コア・ カリキュラム 資質・能力	【参考】令和4年度版 医学/歯学教育 モデル・コア・カリキュラム 資質・能力
	【前文】医療/歯科医療の質と安全の 管理、プロフェッショナリズム	【前文】医療/歯科医療の質と安全の 管理、プロフェッショナリズム
1. 薬剤師としての心構え	1. プロフェッショナリズム	1. プロフェッショナリズム
2. 患者・生活者本位の視点		
	2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢	2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢
9. 自己研鑽 10. 教育能力	3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
8. 研究能力	4. 科学的探究	4. 科学的探究
5. 基礎的な科学力	5. 専門知識に基づいた問題解決能力	5. 専門知識に基づいた問題解決能力
	6. 情報・科学技術を活かす能力	6. 情報・科学技術を活かす能力
6. 薬物療法における実践的能力	7. 薬物治療の実践的能力	7. 患者ケアのための診療技能
3. コミュニケーション能力	8. コミュニケーション能力	8. コミュニケーション能力
4. チーム医療への参画	9. 多職種連携能力	9. 多職種連携能力
7. 地域の保健・医療における実践的 能力	10. 社会における医療の役割の理解	10. 社会における医療の役割の理解

大項目A～Gと中項目、小項目のリスト（案）

薬学系人材養成の在り方に関する検討会
薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する
専門研究委員会（第2回）
（令和4年3月7日）資料1 一部改変

現行
平成25年度改訂版

改訂案



3.薬学実務実習

薬学実務実習に関する連絡会議

平成25年11月8日
平成26年11月18日一部改正
平成30年11月28日一部改正
令和3年2月12日一部改正
新薬剤師養成問題懇談会

1. 目的

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（以下「改訂コアカリ」という。）に基づく薬学実務実習の在り方、実施体制等の大枠や方針について、関係機関間の調整を図るとともに、各機関の役割や検討事項を明確化し、薬学実務実習の実施に向けて各機関の取組へと引き継ぐことを目的として、協議の場を設ける。

2. 検討事項

- (1) 改訂コアカリに基づく薬学実務実習の在り方
- (2) 改訂コアカリに基づく薬学実務実習の実施に向けた準備状況の確認及び実施状況の確認と検証
- (3) 薬学実務実習に関するガイドラインの検証と改訂
- (4) 本会議実施期間終了後の新たな協議の場の検討
- (5) その他、必要な事項

3. 実施方法

- (1) 会議の構成は別紙のとおりとする。
- (2) 会議に座長を置き、座長は委員の中から互選する。
- (3) 会議は原則公開とする。
- (4) その他、会議の運営に関し必要な事項は、座長が会議に諮って定める。

4. 実施期間

平成25年11月8日から令和5年3月31日までとする。

5. その他

会議に関する庶務は、厚生労働省医薬・生活衛生局総務課及び薬学教育協議会の協力を得つつ、文部科学省高等教育局医学教育課が担当し、関係経費は参加機関が各々負担する。

(別紙) 会議の構成

〔各2名以内〕

国公立大学薬学部長（科長・学長）会議、一般社団法人 日本私立薬科大学協会、一般社団法人 日本病院薬剤師会、公益社団法人 日本薬剤師会、文部科学省高等教育局医学教育課、厚生労働省医薬・生活衛生局総務課

〔各1名以内〕

一般社団法人 薬学教育協議会、公益社団法人 日本薬学会、一般社団法人 薬学教育評価機構、特定非営利活動法人 薬学共用試験センター

〔数名〕 大学関係者

「薬学実務実習に関するガイドライン」

(平成27年2月10日 薬学実務実習に関する連絡会議)

<経緯>

薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）に基づく実務実習の在り方、実施体制等について、大学、職能団体等の薬学関係者で検討を行い、改訂コアカリに準拠した平成31年から開始される実務実習を実施するための指針としてガイドラインを作成。

改訂コアカリに基づく実習の実現に向けた課題

◆改訂コアカリに基づいた実習の在り方の明確化

◆各達成目標を病院実習と薬局実習を区別せず一本化したことへの対応

◆改訂コアカリで強化された内容(薬物療法、チーム医療、地域医療等)への対応



ガイドラインの主なポイント（課題への対応）

【実習の在り方・目標】

◆病院実習と薬局実習の一貫性を確保し学修効果を高めるとともに、参加・体験型学習を進め、薬剤師業務の意義や実践的な臨床対応能力を身に付ける実習を行う。

【実習の枠組み】

◆病院実習と薬局実習を連続して行うこととし、全ての学生が連続して行えるよう枠組みを見直す。
(3期制 → 4期制)

【大学、実習施設、指導薬剤師への指針】

◆大学は実習の質の担保に主導的役割を果たす。

◆実習施設及び指導薬剤師は強化された内容を実施するための環境整備、実習計画の作成を行う。

今後の取組

- 大学、実習施設、関係団体における準備と毎年度の検証、ガイドラインの検証と改訂
- 実習施設の状況の確認
- 実習施設の要件の見直し
- 全ての学生が連続した実習を行えるよう、施設割り振り方法等の検証・見直し